性奴隷ロボット

…？

今
私を呼びました？

さーくるぽてとさいだー

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

「シリアスさん大好きですっ…!!!♡」

「指揮官に一途で乙女なトコロもっ!」

ビュッ!

「館内警備員の僕にも優しい包容力で接してくれるママみある部分も!」

「届けっ…!!精子この想いッ…♡」

『…私につ…?!』

「って シリアスさん?!」

『…私の「ママみの部分にバブみを感じた」…ですか』
『何を言っているのか少し分かりかねますが…というか少しは恥ずかしがってくださいっ…』
『…でも昨今若い成人男性が母性を求める、というのは聞いた事があります』
『この精液量が私への想いの量…？そんな事言われても…』
『…こんなに…♡』
『…そんなに好きスキ言わないでください聞こえてますからっ…』
『…もう仕方ありませんね』
『…良いですか？この精子さん達を貴方自身だと思ってください』

『ちょっとぉ!!
あのおばさん
なんか「この部屋の中の
殺気のつかい方」
とかいってたぁ!!
ねぇ!!』
『あのトキハ
トトカさんの最期の
カイ語ッ!!
私の姓明を聞いて
大きなのだとかぁ〜』
『ぎゃ
トトカさんくらいトリッキィな
カイ語ッ!!なんてぇ〜』
「ぐ…っ!!」
『ぎゃ〜
私のおトキに
「お嬢ぉ〜ぎゃるぅ〜」』
『ぎゃ〜〜〜

あーん
無理しないで
…私は私の事を好いてくれた警備員さんを少しからかい諦めるキッカケになってくれればってそう思ったんです
…でも私を想いつくられた精子(シリアス)はゴム内でもお構いなくずんずんと奥に進み
いつしか厚かまじく図々しく自分の巣とでも主張するかのように子宮内にすっぽりと納まっていたんです
子宮が既に陥落させられていた事に私は全く気づきませんでした

私とご主人様
同時に不注意からの転倒
『ではダイドー
この部屋はアナタに
お任せします!』
「わっ」
「きゃ…!」
「イテテ…
すまないシリアス
大丈夫か?」
指揮官の心音を
感じる程
近い距離
私にとって幸せな
シチュエーションだった
ハズなんです
そして軽く当たった
指揮官の膝と
私の下腹部
『あ…♡
ご主人様っ…』

ゴムが壁になり一滴も漏れる事の無くなった、私を孕ませる為だけに作られた精子。
ご主人様の想い欲しさにカラカラに乾ききった受け入れ万全態勢の子宮がソレを全部飲み干すのに大した時間はかかりませんでした
「や…!」
「ウソっ…待って!」
「イヤっ…!ご主人様っ…!」
「ごしゅじんさまっ…♡ごめっ…」
「ごめんなさいっ」
「ごめんなさいっ…♡」
「?!どうしたんだシリアス!」

全身に愛するご主人様を
強く感じながらの
感じた事の無い初めての
幸せな受精…♡

「ごしゅじんさまっ…♡」

同時に
『誇らしきご主人様』を
心から好きでいられた
最後の瞬間でもありました

「好きですっ…！♡」

「好っ…」

「……？」

「…シリアス？
今なんて？」

ママ！
ふぅ…♡
このヒトパパじゃないから好きにならないで！
ふぅ…♡
「シリアス？ちゃんと立ってるか？」
「ご主人様ハズカシイですすぐ手を…離してくださいませ…♡」
「でもフラついて…」
「触れないでください…♡」

お　く　づ　け

■ヒ書艦のヒめゴト。
■発行日　2022/12/31(c101)
■発行　サークル　ぽてとさらだ
hi_mekuri@hotmail.co.jp

※本誌の18歳未満の方の閲覧の禁止

比女護部

…？

今私を呼びました？

さ～♪ぱぱっとさばき！

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の購入・閲覧禁止

「シリアスさん大好きですっ…!!!♡」

「指揮官に一途で乙女なトコロもっ!!」

「館内警備員の僕にも優しい包容力で接してくれるママみある部分も!!」

「届けっ……この想いッ…♡」

『…私にっ…?!』

「ってシリアスさん?!」

『…私の「ママみの部分にパブみを感じた」…ですか』
『何を言っているのか少し分かりかねますが…というか少しは恥ずかしがってください…』
『…でも昨今若い成人男性が母性を求める、というのは聞いた事があります』
『この精液量が私への想いの量…？そんな事言われても…』
『…こんなに…いっぱい……♡』
ジュル…♡
『…そんなに好きスキ言わないでください聞こえてますからっ…』
『…もう仕方ありませんね』
『…良いですか？この精子さん達を貴方自身だと思ってください』
『ほら、私のおナカに「お帰りなさい♡」』
「んっ…♡」
『でもアナタが入ってこれるのはゴム越しでだけ♡』
『私は誇らしきご主人様にとって数ある艦船の一人でしかありませんが、ココロは彼のモノなんです』
『なのでザンネンですがアナタは精子の気持ちで私の体温を感じてオギャるだけです♡』
『諦めがつきましたか？』

あーんっ
無理しないで
…私は私の事を好いてくれた警備員さんを少しからかい諦めるキッカケになってくれればってそう思ったんです
…でも私を想いつくられた精子はゴム内でもお構いなくずんずんと奥に進み
いつしか厚かまじく図々しく自分の巣とでも主張するかのように子宮内にすっぽりと納まっていたんです
子宮が既に陥落させられていた事に私は全く気づきませんでした
私とご主人様同時に不注意からの転倒
『ではダイドー この部屋はアナタにお任せします!』
「わっ」
「きゃ…!」
「イナデ…すまないシリアス 大丈夫か?」
指揮官の心音を感じる程近い距離
私にとって幸せなシチュエーションだったハズなんです
そして軽く当たった指揮官の膝と私の下腹部
『あ…♡ ご主人様っ』
ドドド

ゴムが壁になり一滴も漏れる事の無くなった、私を孕ませる為だけに作られた精子
ご主人様の想い欲しさにカラカラに乾ききった受け入れ万全態勢の子宮がソレを全部飲み干すのに大した時間はかかりませんでした
「や……!」
「ウソっ…待って!」
「イヤっ…!ご主人様っ…!」
「ごしゅじんさまっ…♡こめっ…」
「こめんなさいっ」
「こめんなさいっ!♡」
「?!どうしたんだジリアス!」
全身に愛するご主人様を強く感じながらの感じた事の無い初めての幸せな受精…♡
「ごしゅじんさまっ…♡」
同時に…誇らしきご主人様…を心から好きでいられた最後の瞬間でもありました
「好きですっ…!♡」
「好っ…」
「……?」
「…ジリアス?今なんて…?」

おくづけ

■ヒ書艦のヒめゴト。
■発行日　2022/12/31(c101)
■発行　サークル　ぽてとさらだ
hi_mekuri@hotmail.co.jp

※本誌の18歳未満の方の閲覧の禁止